

令和5年度 第1回社会教育委員会議 会議録

開催日時	令和5年5月1日 木曜日 13時30分から16時まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	森英夫教育長、蓮實茂夫委員長、久保田秀実副委員長、 関口金由紀委員、橋本由恵委員、山内みどり委員、三宅栄子委員
欠席者	稲葉通隆委員、中西美保委員
事務局	椎野教育部長、山下生涯学習課長、加藤生涯学習班長、 井上スポーツ推進班長、二見主任主事
その他	傍聴者2名

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

(1) 令和4年度 二宮町社会教育事業報告について

(委 員)

図書の①の蔵書数だが、リサイクルに出した冊数と、新しく購入して増えた冊数はどのくらいか。記載してほしい。

(事務局)

次回会議で回答するとともに、記載について検討する。

(委 員)

放課後子ども教室について、保護者の意見などはあがっているか。また、子ども会への加入率はどのくらいか。

(事務局)

放課後子ども教室は、保護者のお迎えを任意または撤廃したところ好評で、登録児童数の大幅な増加につながっている。また、内容についても非常に好評である。子ども会の加入率は、昨年度は60パーセントほどとなっており、年々減少傾向にある。

(委員)

放課後子ども教室のアンケートをまとめたものをあげてほしい。

(事務局)

承知した。

(委員)

昨年度は、夏休み中もラディアンなどを使用して放課後子ども教室を開催した。生涯学習課の協力により、施設の部屋を十分に確保し、暑い時期に屋内で安心して多様な内容を実施することができ、保護者からもとても好評であった。二宮小学校については、夏休み中の教室は学年を分けずに実施してほしいという意見があり、今年度はそのように実施したいと考えている。

(委員)

効果の実証として、登録者数が何パーセント増えたのか数字があると、小規模の一色小学校においても、効果があったという証明になる。

(委員)

山西小はとても参加が多く、特にかまどを使った火起こし体験が人気であった。

(委員)

山西小は参加人数が多いが、なんとか学年を分けずに実施している。人数を分けると回数が半分になってしまう。今年度の参加人数にもよるが、回数を減らさずにどのように実施していくかが今後の課題となる。

(事務局)

放課後子ども教室は、今年度も各小学校で12回の実施を予定しており、そのうちの夏休みの回については、二宮小はラディアン、一色小は一色防災コミュニティセンターでの実施となる。さらに、地域学校協働活動推進員から3小学校合同で放課後子ども教室を実施してはどうかという提案があり、夏休みにラディアンで実施する1回分を、3小学校の児童が参加できるかたちとする予定である。

(委員)

にのみや学園となり、小中5校の繋がりがとても大切になると思う。夏休み

は中学生をボランティアとして募り、中学生と小学生の交流になるような企画を考えている。

(委員)

登録数については、地域ごとの参加率も数字で見えるとよいのではないか。

(事務局)

次年度の課題としたい。

(2) 令和5年度 二宮町社会教育事業計画について

(委員)

資料2の基本方針は従来の作り方とだいぶ違い、工夫を感じた。

(事務局)

今回の基本方針は、総合計画と同じような作りになっている。目標の数値を掲げて、計画年度までの達成状況や進捗状況を数値で確認していくかたちに切り替えることで、確認を行いやすくした。重点的な取り組みについても、具体的にどのような事業を重点的に行っているかを掲げ、実際の取り組みと数値目標の連動性を分かりやすく示したものになる。

(委員)

指標をしっかり掲げており、とても分かりやすい資料になっている。

(委員)

「コミュニティ・スクールの認知度」の目標について、昨年度の実績に対して、目標値がとても低いのではないか。

(事務局)

コミュニティ・スクールの認知度は、実際の活動に関わっている人と一般の人とで、かなりの隔りがあるように感じる。10パーセント数値を上げるためには相当な努力が必要であり、時間をかけて行っていくことが必要と考える。

(委員)

総合戦略の町民アンケートはどのように行っているのか。

(事務局)

無作為の抽出によるポストインで行っており、調査客体が約 1,000 件で、回収率が 30 から 40 パーセント程度である。

(委員)

二宮町の教育の取り組みの特徴として、小中一貫のコミュニティ・スクールと言えるようにするためには、認知度をもっと上げる必要があると思う。

(事務局)

目標値の設定は初めての取り組みであり、5年後の目標値の設定は悩んだところである。現実的に達成することを見込んだ目標値の設定と考えてほしい。

(委員)

生涯学習推進計画の策定にあたり、町役場の各課等に対して、生涯学習の推進に資する事業の実施状況を照会しているとのことだが、回答状況はどうなっているか。

(事務局)

回答を取りまとめている段階であり、後日提示する。

(委員)

町の「身近な余暇ガイド」は町民の生涯学習活動に役立っていると思うが、町外における生涯学習の機会の確保や充実も必要ではないか。例えば「プラネットかながわ」というサイトがあり、こちらにアクセスする仕組みを町として作るなど模索してほしい。

(事務局)

参考にしたい。

(事務局)

身近な余暇ガイドは、今のところ町ホームページと紙ベースで対応しているが、今後は各団体のホームページにリンクするなどデジタル化も考えていく。

(委員)

人権教育推進事業の研修会は他の部署でも行っていると思う。人権教育に

関する内容は幅が広いので、他課とも連携して行うのがよいと思う。

(事務局)

人権教育に関しては、町長部局では地域政策課が一般町民を対象に実施している。教育委員会における人権教育は、例年同じような内容であったが、今年度は、教育委員会で実施する意義として、教職員や社会教育関係者を対象に、自身の教育現場で役立ててもらえるような内容の研修として実施する。

具体的には、静岡大学の先生を招き、ワークショップを交えながら行う予定である。地域政策課との連携も行っている。

(委員)

にのみや町民大学推進事業の神奈川大学包括協定事業について、令和4年度は募集人数が集まらず中止となった。令和5年度も開催が未定となっているがどのように考えているのか。

(事務局)

昨年度は平塚キャンパスで中学生向けの事業を実施する予定であったが、人数が集まらず中止となった。今年度は平塚キャンパスがなくなってしまったが、包括協定自体は継続されているので、新しいキャンパスで何かできないかを調整しており、現時点では未定となっている。

(事務局)

包括協定を取りまとめているのは企画政策課である。包括協定のなかで実施できるいくつかの項目があり、その中の生涯学習という項目で事業を計画したが、横浜キャンパスに移ってしまったため、改めて企画政策課の方で調整する。

(委員)

包括協定はとても大切な事業だと考える。二宮には大学がないので、東海大学など他の大学とも包括協定を結ぶなど、事業を推進してほしい。

(委員)

大学としても、外からのリスクリングを増やしているところもある。対象を中学生だけでなく、大人が参加できるような事業を生涯学習課から提案していくのもよいと考える。

(事務局)

企画政策課へ提案があったことを伝える。

(委員)

社会教育施設について、今後、施設の改修などを行う場合、社会教育事業の予算や業績評価指標の数値に影響があると思うが、今年度の計画にはその影響は加味されているのか。

(事務局)

加味されていない。令和5年度二宮町教育委員会基本方針とは別に、「二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画」が策定されている。その中で各施設の方向性と期間を打ち出しており、今後はそれを踏まえながら年度ごとに示していきたい。

(委員)

子ども家庭庁ができたが、その予算や事業についてはどこが管轄するのか。

(事務局)

基本的には子育て・健康課となり、内容によっては、教育総務課や生涯学習課も連携していくことになる。

(委員)

二宮町では、子どもの居場所づくりなどの活動を行っている方が多く意識が高いため、関連した動きがあれば迅速に対応してもらいたい。

(委員)

社会教育に関する情報発信の強化について、令和5年度の重点的な取り組みは「なし」とあるがなぜか。

(事務局)

具体的に取り組む上で予算を計上する必要がなく、通常業務の中での取り組みとして実施可能であるため、「重点的な取り組み」という位置づけとして記載することが難しかった。学校教育に関する情報発信の強化についても重点的な取り組みは「なし」としている。

(委員)

情報発信は重要であり課題も多いと考えるがどうか。

(教育長)

学校教育に関する情報発信は、主に管理職が実施している。現状、教職員が情報発信を行うことは難しい状況である。町民や子どもたち、保護者に向けて情報発信していくことは重要だと認識しているが手が回らない。

(委員)

先生たちの現状は承知している。外部へ委託するなど発想を変えて方法を考える必要があると思う。社会教育に関しては町の担当だと思うが、「なし」とするのは非常に消極的に見えてしまう。情報発信を行わず「伝わらない」、「知られていない」というのではなく、担当者を置き、何かしらの具体的な取り組みがあった方がよい。

(事務局)

ホームページのリニューアルなどの取り組みは行っているが、重点的な取り組みについては予算を確保できていないため、位置づけを行うのは難しかったと理解してほしい。今後の検討課題としたい。

(委員)

地域学校協働活動について、校長や教頭から教職員へあまり伝わっていないように思う。栃木県ではだいぶ前から学校側に地域と連携を担う職員をおいていると聞く。どうしたら教職員に地域学校協働活動に対する理解を深めてもらえるのか。

(教育長)

5月の校長会で地域学校協働活動推進員の方へもっと気軽に相談してほしいと伝えた。今後は教職員と推進員とが直接話しができるような場所を設定していきたい。

(委員)

推進員のアカウントを自主的に作成し、SNSで情報を発信しているが、基準がないためか学校長は消極的である。SNSに対する基準はどこで作成するのか。

(教育長)

学校運営協議会の承認があれば良い。学校運営協議会でそれぞれの学校独自の活動を協議してもらえたらよいと思う。

(3) 社会教育・社会体育施設について

(委員)

ラディアンのリニューアルについて、令和5年度の基本設計と令和6年度からの実施設計をもっと具体的に教えてほしい。コワーキングスペースや学習コーナーにより図書館のスペースが削減されてしまうのか。

(事務局)

具体的なことはまだ決まっていない。人が集まってくることを前提に今のラウンジスペースを拡張していくイメージである。図書館内の学習スペースを図書館の開館時間以外でも利用できるようにモールに移動する、図書館内を子育てエリアと大人エリアに分けてレイアウトを変えるなど、人が集いやすい場所を作ることを目的としている。今後、図書館協議会及び社会教育委員会議に方向性をお諮りし、ご意見を伺いながら進める予定である。図書館というスペースは少し狭まるが、できるだけ開架図書を減らさずに進めていく方向でいる。

(委員)

子ども達が図書館を利用しやすいよう、モールに近い場所へ児童コーナーを設けたが、そこが学習スペースに代わってしまうと、子ども達に与えるイメージが変わってしまうのではないかという懸念が生じる。

(事務局)

子ども達が継続的に本への親しみをもってもらうことを目的としている。レイアウトを変更しながら、図書館事業だけでなく、例えば保健センターの子育て事業も同時に実施するような施策を検討していく。

(委員)

いろいろな意見を聞きながら、計画してほしい。

(委員)

まだ、何も決まっていないというが、図書館内にカフェや託児所を備えるなどの大規模なリニューアルは考えていないのか。

(事務局)

決められた面積内での変更は検討できると思う。

(委員)

果樹公園の用地取得はできているのか。

(事務局)

果樹公園は新庁舎建設にあたるので、施設再編課が進めている。

(委員)

ラウンジスペースやコワーキングスペースの名称を子ども達に分かりやすく名付けたら良いのではないか。

(委員)

温水プールの件について、神奈川新聞に廃止という記事が出ていたが決定しているのか。

(事務局)

公共施設再配置・町有地有効活用実施計画が3月に策定されている。温水プールについては、令和7年度までに廃止、もしくは転用も視野に入れて検討せざるを得ない状況であると報告をしている。新聞社の方の感想がタイトルになってしまっている。

(委員)

廃止もやむを得ない状況にあると思う。廃止はいつ決定するのか。

(事務局)

今まで社会教育委員に報告する機会がなかったため、本日状況を報告させていただいた。今後のことは検討中だが、次回の社会教育委員会会議ではもう一歩踏み込んだ話ができると思う。

(委員)

小学校の水泳教室が7月に始まるが、どうするのか。

(事務局)

すべて山西プールで実施する方向である。

(委員)

水泳教室は人気があったと思うがどうなるのか。

(事務局)

今の状況をお知らせしながら、今後どのようにしていくか検討を進めていきたいと考えている。

(委員)

メンテナンスを行っていたにもかかわらず、何故このような状況になってしまったのか。原因についてはどのように考えているか。また他の施設についても老朽化はある。同じようなことにならないか。

(事務局)

温水プールについては、他施設の耐震化などとの優先順位を考えるなかで、改修を行うタイミングが遅れてしまったと考える。これまで行政は長く使うための方策をとってこなかった。今後は、二宮町教育等施設長寿命化計画及び二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画に基づき計画的に予防保全を行っていく。

(委員)

二宮は海のある町である。子どもたちが泳ぎを身につけられる施設は町にあってほしいと強く希望する。

(事務局)

今ある施設も現状維持ではなく更新やリニューアルなどを含め考えていきたい。その際にはご意見をお願いしたい。

(委員)

山西プールの利用状況はどうなっているか。7月から8月までの利用になっているが、気温の高い期間も長くなっていると感じている。利用期間をもう少し広げられないのか。

(事務局)

今年度は準備が進んでいる状況なので難しいが、次年度以降に考えていきたい。

(4) その他

- ①委員からの二宮小学校創立 150 周年に対する協力依頼
- ②関東甲信越静社会教育研究大会の神奈川県大会の開催について

7. 閉 会